新　生

東北新生園入所者自治会

令和三年六月　十日印刷
令和三年六月二十日発行

新　生

令和三年六月　十日印刷
令和三年六月二十日発行

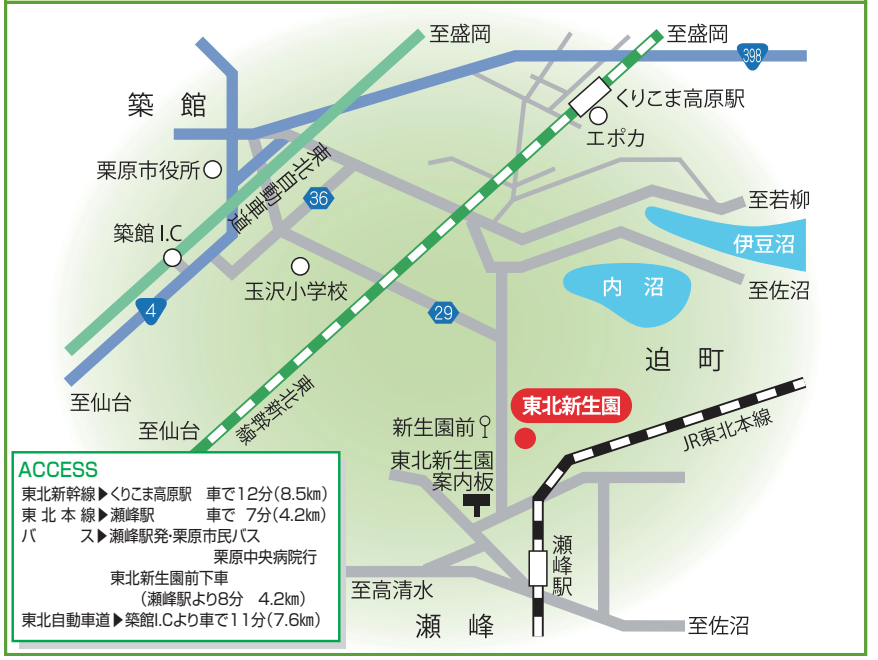
新生第七十三巻第二号

第七十三巻第二号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢１番地
土地面積	３５１,２９１㎡
建物延面積	２５,２８０㎡
開園	昭和１４年１０月２７日
医療法承認病床	２４４床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男１４名　女３０名　計４４名
職員定員数	１３９名（令和３年４月１日現在）
園長	医学博士　横田　隆

東北新生園交通案内図



新生園のさくら

— 昼の散歩風景 —

今年は園内の桜が
一斉に咲き誇りました。

— 夜桜風景 —

園内日誌

令和三年　一月～三月

《一　月》

十二～十五日　正月行事（抽選会）

《三　月》

三十一日　転勤・退職者離任式

【謝寄贈図書欄】

令和三年　一月～三月（敬称略）

楓　岡山県　邑久光明園
多磨東京都多磨全生園
菊池野熊本県菊池恵楓園
青松香川県大島青松園
愛生岡山県長島愛生園
甲田の裾青森県松丘保養園
緑園宮城県登米高校生徒会
ふれあい文芸　令和三年版
東京都　公益財団法人日本財団

令和3年6月10日　印　刷
令和3年6月20日　発　行

発　　行　東北新生園楓会(自治会)
編　　集　楓　会　文　化　部
印　　刷　川内印刷株式会社

〒989－4601
宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一
東　北　新　生　園　電話 0228 (38) 2121㈹
発　行　所　東北新生園入所者自治会　電話 0228 (38) 3600

新生・第七十三巻第二号……目　次

表紙…「桜・神代曙（ジンダイアケボノ）」…撮影　事務長　加　藤　久　弥
　寛仁親王妃信子殿下御成記念下賜桜

桜によせて……楓会会長…久保瑛二…(2)
コロナ雑感……副園長…三國潤一…(3)
ご挨拶……庶務係長…田中智也…(7)
ご挨拶……医事係長…田中愛理…(9)
第一水源地井戸工事について……施設管理係…本田　充…(12)

═ 新生文芸 ═

詩……選者…佐々木洋一…(14)
短歌……選者…皆川二郎…(17)
俳句……選者…山田桃晃…(19)
川柳……選者…雫石隆子…(21)
またお世話になります……福祉室長…菅原政敏…(23)
着任のご挨拶……会計係…原　新…(26)
「お世話になります」……栄養係長…中里敏浩…(29)
転勤のご挨拶……看護師長…髙橋佑美…(31)
四コマ漫画「コロナ撃退!!今こそ愛と思いやりを♡」…堀江由美…(32)
園内日誌・謝寄贈図書

桜によせて

楓会会長　久保瑛二

また春がやってきます。私たちの心が満開の桜にときめく春です。

先日読んだ「おもしろくて為になる桜の事典」の中に、桜の寿命とこれからの桜についての一文があり、染井吉野の特性は、他の多くの花と異なり枯れてから散るのではなく、生きたまま綺麗なまま散ることとされる。染井吉野はまた群れとして植栽され、一斉に咲き一斉に散る為、とりわけ感動的な桜となった。

「あぁ今年もまた桜の花が見られた」と感慨を覚えずにはいられない。

ところが、染井吉野は病気に弱く、寿命も六十年程度と云われるため、近年、虫の害にも強い神代曙が推奨され〝桜といえば〟も変わっていくかもしれないとあった。

ソメイヨシノ

コロナ雑感

副園長　三國潤一

この原稿の執筆時点（四月最終週）で全国の新型コロナ感染症（以下コロナ）による死者が一万人を超えた。東京などでは三度目の緊急事態宣言が発出されているが、速やかな収束は望めそうにない。

コロナ対策として効果が期待されるのはワクチンだが、四月二十日、久保楓会会長にお願いしてトップバッターになって頂き、入所者の皆さんに無事一回目の接種を行うことができた。「新生」が発行される六月下旬には二回目の接種を終え、皆さんが十分な免疫を獲得できているだろうと考えている。

令和元年末にコロナが中国で発生してからおよそ一年半、病気について、社会についていろいろなことが分かった。思いつくままに書き記してみる。

・日本の医療体制は思った以上に脆い

コロナは法的には二類相当に分類され当初は入院が必要とされたが、あっという間に病床が一杯になったため無症状・軽症者は宿泊施設や自宅での療養となった。そして第四波になると一部の地域では重症でもなかなか入院できない状態になってしまった。

欧米と比較して日本は人口あたりの病床数が多いが、そもそも欧米と日本では入院の基準が違う。日本では入院で手厚い医療が施される病気でも、彼の地では病院に行かないか行っても外来治療になる場合がある。それの善し悪しは別として、現在の日本の基準で考えれば、コロナの診療ができるような病院に

はもともと病床の余裕はなかった。

コロナ患者を受け入れようとすれば、他の病気の患者を退院させるか入院を控えるしかない。大阪ではがん専門病院でコロナ患者を受け入れることになったという。また、急性アルコール中毒の若者が受け入れ先が見つからず亡くなったという報道もあった。これらはあくまでも一時的なものだろうが、新型コロナ感染症に立ち向かうには他の病気を犠牲にせざるを得なかったという例だ。

中国のようにプレハブで病院を作って対応すれば良いじゃないかという意見もあるが、感染者が減らなければイタチごっこになる。何より、建物や医療機器は作れても肝心の医師や看護師が沸いて出てくる訳ではない。

・医療材料は無尽蔵にあるわけではない

昨春のマスク・アルコール不足は一般の人たちにとっても大きな問題となった。需要が一気に増大したことに加え、実は既にこれらの物資の多くを輸入に頼っていたことが原因だ。震災の時は全国からの援助で物資不足は解消されたが、今回のように日本中で、そして全世界で不足している物はなかなか手に入らない。これはワクチンにも言えることで、世界的に不足し尚且つ自国で生産できないものは、いくら駄々を捏ても手に入らないということを肝に銘じるべきと痛感した。

・根拠に乏しい劣悪な情報が巷にあふれ、それを信じてしまう人が相当数いる

もともと雑誌やインターネットは玉石混淆で情報の質を見極める必要があったが、コロナに関しては新聞もテレビも信用に足る存在とは言い難い。「専門家」を称するコメンテーターが全く的外れの話をしたり、そもそも医

学・医療を語るべきではない芸人や基礎的知識も持たない新聞記者が独自の主張をしたりと、目を覆うばかりである。そして残念なことに、正しい情報よりそういったセンセーショナルなものの方が広く伝わるらしく、正しい情報を発信している方が謂われなきバッシングを受けるに至っては、怒りを通り越して悲しくなる。

・マスクや手洗いなどの感染対策を行えば、インフルエンザを大きく減少させられる

昨年十月から本年三月までの宮城県のインフルエンザ報告数はわずか八例。全例が把握されている訳ではないが例年は万単位で流行しているものがほぼゼロに抑えられた。昨年の夏、南半球でインフルエンザが激減したという情報から日本でも同様の傾向が現れるだろうとは言われていたが、予想以上の減少であった。コロナが収束してからも感染対策を続ければインフルエンザの大流行は防げることが分かった。しかしコロナは同期間に宮城県で五千人以上が感染している。恐ろしい。

・お金とマンパワーをつぎ込めば壁は破れる

ファイザー社のワクチンは「急造で信用できない」といった声も聞かれているが、あれはかなり前から研究されてきたもので、基本的な原理は確立されながらも技術的な壁がなかなか破れない、謂わば「夢のワクチン」だった。今回、国家レベルのプロジェクトとして莫大な予算とマンパワーをつぎ込み、ついに実用に至った。日本の製薬会社や国がこの波に乗れなかったのは様々な要因があるので致し方ないとは言え、非常に残念だ。

今後、コロナがどうなっていくかは全く予

想できないが、いずれは調伏できるだろう。失った命を取り戻すことはできないが、次の危機に面した際に、この禍の中で得られた経験を活かすことができればと思う。それは国レベルだけでなく個人レベルでも。

ワクチン接種第１号（久保会長の様子）

ご挨拶

庶務係長　田　中　智　也

この度、国立病院機構八雲病院から転入して参りました、庶務係長田中と申します。

さて、八雲と聞いてどこなのかイメージが浮かぶでしょうか？島根県ではなく、北海道南部の人口一万七千人の日本で唯一、二つの海を持つ町でありながらも、乳牛の飼育数も一万頭に迫るという、のどかな子育て環境抜群の町でした。

ここで、自己紹介をさせていただきますと、北海道札幌市に生まれ、落語家の三遊亭楽太郎師匠（現、六代目円楽）のテレビ番組に憧れて小学生にしてゲートボールセットを購入してクラスメイトとチームを作って、本格的に大人と試合をしておりました。

中学時代からラジオに夢中になり、落語家の桂竹丸師匠のラジオ生中継の追っかけをしておりました。

竹丸師匠とは、今でも交流があり、添付の写真はご本人からメールでいただいた最新の写真です。

昨年末には、文化庁芸術祭大衆芸能部門優秀賞を受賞され、永年のファンとして自分のことのように大喜びしました。

このような少年時代でしたので、普通に大学に入り落語研究会に入って、将来は落語家かとも言われておりましたが、くるぶしの良性腫瘍の手術の為、入院した国立札幌病院（現、北海道がんセンター）の職員に憧れて、中学三年生の時に国立病院勤務を志し、無事に高校卒業後、公務員試験に合格しました。

最北の療養所であった稚内病院を皮切りに、旧西札幌病院、福島病院、北海道医療センター、

八雲病院と国立には長くお世話になっているのですが、いずれの病院でも長く在職させていただいたため経験病院数は少ないです。

当園におきましても、せっかくいただいたご縁ですので、少しでも長く在職させていただき、今はまだお役に立てておりませんが、少しでもお役に立てるよう努力して参ります。一方、私生活では四人の子宝に恵まれて、転勤族ながらも学校や幼稚園の保護者会役員活動には積極的に参加させていただいております。

このご時世ですので、趣味のうち実施できている趣味はラジオ鑑賞のみですが、他に温泉、ドライブ、ボウリング等も趣味です。宮城県も観光地は沢山ありますので、早く家族でドライブしたいところです。

初めてのハンセン病療養所、約十五年ぶりの国の会計制度ということでまだまだ不慣れではあり、経験不足で頼りないかと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

末筆となりますが、医事係長である妻の方が新生園二回目で福祉室という入所者様に近い職場ですので、皆様おなじみかと思います。医事係長の夫と言う覚え方でも結構ですので、早く皆様に知っていただけますよう頑張って参ります。

（桂竹丸師匠ご本人提供）

ご挨拶

医事係長　田中愛理

この度、北海道にある国立病院機構八雲病院から転勤して参りました、医事係長の田中と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

当園の勤務は二度目になります。採用時の施設が当園でした。給食係と施設管理係として勤務させていただきました。その後、仙台病院（現仙台医療センター）、盛岡病院（現盛岡医療センター）、福島病院、旭川医療センター、北海道がんセンター、八雲病院に勤務しました。

久しぶりに来園し、メープルケアセンターや総合診療棟、パークゴルフ場や公園が作られており、すごく整備された園内となっていたので、とても驚きました。また、給食係の時に滋養物の配給時等でお世話になった作業手の方々が、各メープルケアセンターの看護助手として配属されていたことにも驚きましたが、お声をかけていただきとても嬉しく思いました。

私の出身は、山形県の河北町です。河北町は、山形県のほぼ中央部に位置する町で、昔は最上川舟運の紅花の集散地として栄えており、雛とべに花の里として知られています。

毎年四月上旬に「ひなまつり」が行われ、「ひな市」が立ちます。五〇〇年も前から毎月十八もの市が立ち、大変な賑わいをみせていて、そのうち、城主が開いた旧暦三月二日の市がちょうど雛の節句にあたることから、いつしか「おひな市」とよばれ今日に至っているそうです。数多くの享保雛や古今雛などは、紅

花の取引で上方文化がこの地に導入されたと言われています。小さな町ではありますが、立派な雛が数多く残っているひなまつりとなっています。

享保雛

河北町は「べに花の里」でもあるように、紅花資料館があります。この資料館は、近郷きっての富豪だった堀米四郎兵衛の屋敷跡にあり、武器や生活用品や古文書なども保存されています。館内には、紅染め体験を行うことができる紅染工房も併設されているので、オリジナル模様の色鮮やかなシルクハンカチ作りも楽しめます。

また、私も子供の頃に良く遊びに行っていた河北町児童動物園もお勧めの場所です。山形県内唯一の動物園で、小さな動物園ではありますが、フクロウやオシドリなどの鳥類を中心に、ヤギやヒツジ、ニホンザルなど三十種類以上の動物がいつでも無料で見られます。その他、園内には孔雀檻や放鳥舎、剥製動物館もありますので、鳥類が好きな方は是非足をお運び下さい。

このコロナ禍で園外の方との行事を行えない状況ではありますが、園内行事の収穫祭やお正月行事での新生茶房の方を、栄養班と一緒にお手伝いさせていただきました。入所者様が抽選会で、一等が当たり満面の笑顔になって喜ぶ姿や、お餅つきを楽しまれている姿が印象的でした。今後も園内行事に参加して行きたいと思いますので、その際はお声がけ下さい。

最後になりますが、入所者様が安心して過ごされるように努力して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

町の花　べに花　「提供：河北町」

第一水源地井戸工事について

施設管理係　本田　充

新生園では、現在敷地外に第一水源地と第二水源地の二基の井戸があり、汲み上げられた井戸水の送水を園敷地内のろ過室で受けとり、ろ過装置を通したうえで園内各所に飲料水などとして供給しております。

現在の場所から供給されている井戸は、何回かの工事を経ながら、園内への供給の質及び量を維持して運営してきておりました。

しかしながら、昨年七月に専門業者に確認していただいたところ、第一水源地の井戸については掘削から年数が経過しており井戸自体がかなり老朽化しているため、今後井戸水を供給し続けるのは困難であるとの結果報告を受けました。

そこで、厚労本省より予算をいただき、第一水源地の敷地内に新たな井戸を掘ることとなりました。

工事業者は昨年十二月に決定し、二月初旬から本格的に工事に着手する段取りとなりました。

二月三日、今まで使用した井戸を埋めるための「埋井奉告祭」を行いました。日本では古来から「水」は食料の確保など生活に欠かせない重要な資源であるという思想が広まっており、また「八百万の神」の思想と相まって、井戸とは「神が宿りし場所」であるとして大切に扱われていたようです。同様に池・沼・海などの工事でもお祓いをするのは、この「水の神様」の思想によると言われております。

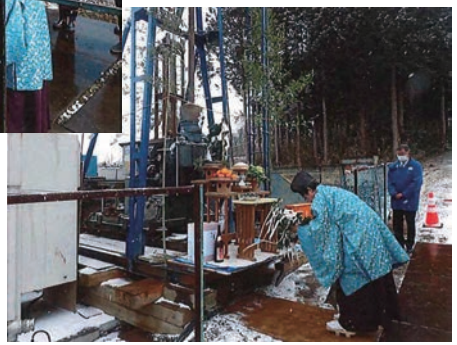
この儀式には『瀬峰八幡神社』より宮司さんを迎え、園からは佐々木事務長補佐以下の関係者、工事業者、監理業者が参加し行われ、終了後から従来の井戸を埋め、隣接地に新しい井戸を掘る作業を行いました。

今年三月下旬に新しい井戸の工事は、入所者の皆さん・職員の皆さん・工事関係者の皆さんのご協力もあって、また、お祓いの功もあって無事終了することができました。

新生誌でこの記事が掲載される頃には、既に第一水源地の新しい井戸から供給された「水」が園内の皆さんに届いており、存分に利用されていることと思います。

今後も園内の皆さんが利用される水の安定供給に努めて参りますので、どうぞ宜しくお願いします。

《御祈祷風景》



詩

佐々木　洋一選

◇入　選◇

《ハ病の看板背負わされ》

斎藤照雄

運命という奴にハ病の看板背負わされ
ハ病家族らを泣かせ
俺も泣き、茨道を歩いていた

ある日、父ちゃんが
「T、突然で隠しておいて悪かったが
この病気を治す所を
県の衛生課に頼んで
探してもらっていたが
やっと見つかった。
どうだ、そこに行って
治してみる気はあるか？」
「あぁ、俺は前から
治してくれる所があれば
早く治してもらいたいから行く。」
「そうか、行ってくれるか
父ちゃんは寂しいけれどな。」
「俺だって、寂しいよ」
「母ちゃんはどうだ？」
「私も寂しいよ、
Tを可愛くて離したくないから
でもTが行くって言うなら
仕方ない、従うわ」
「これで決まったな
ばあちゃん姉ちゃん弟に
父ちゃんが知らすから」

「おぉ、母ちゃんが話があるようだが…」
母ちゃんは俺の曲指
包帯だらけの足を撫でながら
「こんなに悪くしてしまってなぁ
母ちゃん、ごめんな…」
言葉少なに泣き伏せってしまった。
俺は母ちゃんの泣いてる姿を
初めて見た。
「これは、母ちゃんが悪いんでない
俺が悪いんだ。」
この病気は、水が一番悪いとか？
とにかく魚取り水に浸かる所に
行かないでくれ
何度も止めるのもきかず
俺は魚取りに
毎日水に浸かっていた
そのつけが俺にまわってきたんだよ
母ちゃんのせいじゃないよ…と
慰めたつもりだったが
父の淋しげな顔と
母ちゃんの泣き伏した姿を見て
思わず俺もホロリとしてしまった。

【選　評】

《ハ病の看板背負わされ》

斎藤照雄

当時、ハンセン病の看板を背負わざるを得なかった作者や家族はどんな気持ちであったのか。当事者でなければその心情は決して解らない。また、相手への思いやりが自虐となり、切なさが一層増している。方法として会話体が効いているが、そんな意図は作者にはないものと思う。

ひなた

佐々木　洋一

おしのびで入ってきて
にこにこしている
いいなぁ
だんごでも差し上げて
点茶で一服

遠い縁側の縁(ふち)に腰かけ
やっぱりにこにこしている
奥ゆかしさがたまらなく
なにげないしぐさも
いいなぁ

物干竿の布団の尾根
とんぼが飛んできて
翅を広げる
いつのまにか尾根いっぱいのとんぼ
いいなぁ

おしのびには決まって秘め事
ふっくらなさわり
ここちよいいとなみ
ほのぼのしたざわめき
あざやかなたんじょう
いいなぁ

にこにこ　にこにこ
遠い縁(えにし)からのおしのび
ゆめの赤字はついさっき目を見開き
にこにこ　にこにこ
かぎりなくにこにこしている

短歌

皆川二郎選

◇入選◇

島貫徳子

方言にて話す介護士退職しなまり言葉
を話せず寂し

【選評】　方言を交えて話していた介護士が退職された。作者も親しみを感じなまり言葉を話していたが、今は話せずにさびしい。素直な実感が印象的な一首である。

島貫徳子

早いもの夫亡くなりて一年忌花を供えて
静かに祈る

【選評】　夫の一周忌を迎えた事実と下句の作者の動きが照応し心打つ作品である。余分なことを言わず焦点を絞った表現が生きている。

島貫徳子

ふきのとう友摘み取りて夕食に天ぷら
食みて春を楽しむ

【選評】　季節感のある一首であり、友とのかかわりもうれしい。特に結句の「春を楽しむ」が実感のある感性である。

◇佳　作◇

島貫徳子

「ありがとう」夫亡くなりても忘れずにバレンタインのチョコが届きし

歌詠みてすぐメモ取れずふと忘れ目が見えたらと一人呟く

高松宮ご夫妻がお手植えし梅咲き満ちてわれら慰む

◆今野きよし氏の訃報に接し◆

皆川二郎

にはかなる君の訃報を寂しみて短歌(うた)のえにしにうたを捧げぬ

入所者の短歌より君を想ひつつその素朴さに心打たれつ

縁ありて新生園の君の短歌年六回に幾年か見つ

ひとたびも見(まみ)えることのなけれども君の人柄をうたに知りにき

戦争も大震災とコロナ禍も存(ながら)へし君の安らかにあれ

みちのくに咲ける桜を贈りたし黄泉へ行く道花に飾らむ

俳句

山田桃晃選

◇入　選◇

山笑うあの丘この丘ランラ・ラン

斎藤照雄

【選　評】　「丘を越えて行こう」の唄が聞こえて来ます。いかにも楽しいあの丘この丘、ひっそりとしていた一山が芽吹きだし、ほのかに向う山よりの風いかにも山全体が笑う喜び作者そのものでもある。

豆撒きやコロナは外なり福は内

斎藤照雄

【選　評】　豆撒きと福は内でコロナ禍を乗り越えて行く力強さ一人一人が三密を守って行かなければ終束はいつの事やら、鬼ならずコロナは外なり、御身を大切になさって下さい。

北帰行見送り手を振る療の窓

斎藤照雄

【選　評】　何につけても別れは淋しいものである。北帰行は白鳥や雁が北へ帰る季節、療の窓で手を振って見送る在りし日の思い出が、元気に戻って来たのだぞと手を振る療窓が見えて来る。

◇佳　作◇

斎藤照雄

油蝉唸るは午後の一時なり
初日の出一際眩し山療に
春風に紙くずカラコロカラコロと
土産にと療友くれた水戸の梅

川柳

雫石隆子選

◇入　選◇

《人位》
竪琴の調べかき消すクーデター　小林喫茶

【選　評】　第二次大戦後、竪琴の名手の水島上等兵がビルマ（ミャンマー）にとどまって同胞の霊を弔う、と言う小説。混乱のミャンマーの今を想う秀句。

《地位》
満開の桜さびしげバリケード　長沼蓮花

【選　評】　宮城県もコロナ感染拡大により、まん延防止等重点措置が適用され、お花見も花の下を通り抜けるだけ。囲われた桜も人も気落ちの春である。

《天位》
失明の涙の向こうに青い空　斎藤照雄

【選　評】　不自由なお体に、また試練にであった照雄さん。嘆きの中にも明日を生き抜こうとする作品に感動です。見えぬ眼の奥の青空を信じましょう。

◇佳　作◇

自販機よお金おやおやわすれもの　　大平尚拓

山菜がおいでおいでと呼んでいる
言葉なく大きな父の手を握る　　千歩

ワクチンで命の重さ天秤に
リバウンドするなコロナと我が体重　　小林喫茶

全開を祝うが如く梅匂う
また明日も頑張る手綱締め直し
スキャンダルへマスコミ鷹の目の如く　　斎藤照雄

コロナ禍も花粉忘れずやって来る
五月晴れはやる気持ちを落ちつかせ　　長沼蓮花

またお世話になります

福祉室長　菅原政敏

この度、国立病院機構山形病院から赴任して参りました、菅原と申します。

出身は岩手県平泉町となっており、見た目は武蔵坊弁慶のようで確かに怖そうかもしれませんが、そんなことはなく噛めば噛むほど味が出るタイプですので、どうぞ宜しくお願い致します。

こんな私が育った平泉町は、藤原家四代が築きあげた町として観光地となっており、毎年五月の連休には藤原祭りが開催され、その際に行われる東下り（※毛越寺から中尊寺本堂までの行列）では源義経公役をタレントの方をお呼びお願いし行うことになっております。また、二〇一一年には「ユネスコの世界文化遺産」として登録となり誇りに思っております。

隣の市町村では、一関の厳美渓カッコウ団子（※お金をザルに入れ、コンコンと木槌で鳴らすと、シュルシュルとザルを川向かいのお店からたぐり寄せ、お代と引き替えにお茶と美味しい団子が手元に届きます。手元の巧みな紐裁きにより、お茶も団子も無事にお客さんの手元に届きます。）、前沢のＡ５クラス前沢牛の握り（※マグロの握り感覚で美味しく食べられます。少し高く付きますが、ステーキ（二〇〇グラム以上）の方もお勧めです。）、東山の猊鼻渓船下り（※季節にもよりますが、藤の花が綺麗に咲き誇り、自然の中で食べられる鮎の串焼きも美味しいです。）、大曲の花火大会には敵わないですが、川崎村の花火大

会（※岩手県内陸では唯一の水中花火や尺玉が打ち上がります。）が知られておりますので、機会がありましたらどうぞ足を運んでみて下さい。

　このような環境で育った私が、東北新生園に採用となり、転勤となって二十六年ぶりに戻って参りました。人見知りのため転勤する度に、人に慣れるのに数ヶ月は時間を要するところですが、今回の異動先となった東北新生園は二度目となっており、久保会長を始め、職員の方々も以前在籍していた当時にお世話になった人も数多くいたことから、心強く、また安心して仕事に励むことができるなぁとホッとしたところです。ただコロナウイルスの関係もあり、皆さんマスク姿の為、顔を覚えているはずなのですが、目元だけではなかなか判断が付かないので、話しかけられても名前が出て来なかったら申し訳ありませんが、

岩手山（四十四田公園より）

その際にはお許し下さい。

　次に園内の建物についてですが、以前私がいた頃とは様変わりしており、三階建ての建物・遊具や噴水が備わった公園等もあり、驚くほど綺麗に整備されておりました。まさしく浦島太郎状態で、びっくりしてしまいました。

　これは東北新生園におられる方々皆さんの努力があってこそ、ここまで整備されたんだなあと感じました。

　また、現在千本桜に向けての計画も進めているとお聞きしましたので、計画達成に向けて業務を進めていきたいと思います。体力には特に自信がありますので、入所者の皆様、職員の皆様、困ったことがありましたら、できることから解決に向けて努力して参りますので、気軽にお声を掛けていただければと思います。皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

岩手山（四十四田ダムより）

着任のご挨拶

会計係　原　新

令和三年四月一日付で会計係に着任致しました、原と申します。国立病院機構北海道がんセンターから転勤してきまして、この度当園でお世話になることとなりました。

簡単な経歴を申し上げますと、採用は平成十三年（イチロー選手が初めてメジャーに挑戦した年です。）国立療養所札幌南病院の共済係でした。当時は社会人一年目で、経験も知識もなく、さらに前任者は退職して連絡も取れず、随分と苦労した記憶があります。平成十七年に北海道がんセンターの厚生係長、平成十九年に医療情報管理室勤務となり、平成二十二年に診療情報管理士の資格を取得しました。その後、平成二十九年に算定病歴係、令和二年に財務管理係を経て今に至ります。

小学生の頃はサッカーが好きでほぼ毎日外で遊んでいる活発な子でしたが、中学、高校、大学と進むにつれゲームにはまり、どんどんインドア傾向が強くなっていきました。特に大学～社会人五年目くらいまではほとんどまともに運動らしい運動はせず、暴飲暴食（下戸ですが）を繰り返し、自堕落な生活を送った結果、身長一六四センチながらも体重は八十キロを超えて、生活習慣病まっしぐらの超不健康な体形となっていました。しかし、さすがにこのままではまずいと感じ、三十代前半頃にダイエットをしようと思い立ちました。

自分流のダイエット法は①おやつ等の間食禁止、②糖分の入った飲み物禁止、③晩御飯抜き（これが一番きつかった）で、これを二～

三年ひたすら続けた結果二十キロ以上の減量に成功し、生き永らえることができました（笑）。しかし、あまりにもダイエットを頑張りすぎて五十三キロまで落とした際には、頻繁に立ちくらみを起こすようになった為、今では晩御飯も多少は食べるようにしています。体重もほぼ標準の五十九キロ前後になりました。

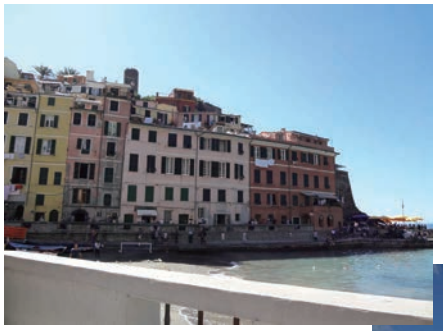
趣味は旅行と登山（トレッキングに近い軽めの）、好きな言葉は『「覚悟」とは!!暗闇の荒野に!!進むべき道を切り開くことだッ!』（ジョルノ・ジョバーナ）です。（笑）

コロナ禍で、昨年からどこにも旅行できなくてストレスが溜まっているのですが、コロナ以前は国内、海外共にあちこち出掛けていました。今までに行った主な旅行先は、国内だと名古屋・奈良・京都・沖縄、海外だとハワイ・アメリカ西海岸・オーストラリア・カナダ・イタリアなどです。特に海外で日本との文化の違いを経験したりするのは楽しいです。また、旅行好きが高じて英語を勉強するのも好きです。聞いたり話したりする力はまだ未熟ですが、Ｊａｐａｎｔｉｍｅｓみたいな簡単な英字新聞であれば読めるようになりました。

登山については、札幌に住んでいた頃は早朝からよく藻岩山に登っていました。本格的なガチ登山は大変そうなのであまりやる気がしないのですが、子供でも登れそうなプチ登山は大好きです。宮城県にも初心者向けの山がたくさんあるようなので、もう少しコロナが落ち着いたら登れるのを楽しみにしています。

東北新生園は自然が沢山あってすごく良い環境だという印象を持ちました。スタンプラリーで園内の敷地を周ったのですが、天気が良く桜も満開で歩いていてとても気持ちが良かったです。また、敷地の広さにも驚かされ

ました。
　会計係の仕事に関しては、ほぼ未経験の分野であり簡単ではないと感じています。しかし、この度このような素晴らしい環境で働かせていただけることとなり、有り難く思っております。ですので、ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、早く仕事を覚えて入所者さんや、職員の皆様のお役に立てるように精一杯頑張っていきたいです。
　最後に、私は昔から人見知りで口下手なところがあり、無口な印象を持たれがちなのですが、決して機嫌が悪いわけではないので、事務室に来られた際や園内で見かけた際には声をかけていただけると嬉しいです。
　それでは、今後とも何卒宜しくお願い致します。


チンクエテッレ

ドゥオーモ大聖堂

「お世話になります」

栄養係長　中里敏浩

　入所者の皆さんこんにちは！
この度、四月一日付で、国立病院機構山形病院より赴任して参りました、栄養士の中里敏浩と申します。どうぞ宜しくお願い致します。
　東北新生園は二度目の勤務となります。前回は平成十九年四月から二十三年三月までの五年間お世話になりました。東北新生園将来構想が進捗し、施設内の整備が前回より更に目覚ましく変わっており驚きました。当時のことを思い出しますと旧給食棟から配飯車で一般寮・不自由者棟へ入所者の皆さんの食事をお届けしておりました。園内では観桜会、ゲートボール大会、花火大会での「わたあめ作り」、敬老会、屋台祭りでの「やきそば・豚汁・お寿司」などの提供等、様々な行事に参加させていただきました。第一メープルケアセンターへの引っ越し、そして第二メープルケアセンターへの引っ越しとともに中央配膳に移行しました。そして十年前の東日本大震災を体験することになりました。震災発生後はライフラインが遮断された影響により、食材料確保に四苦八苦しましたが、多くの方々の協力を得ながら入所者皆様に食事を提供することが出来ました。
　簡単に自己紹介させていただきます。
私の出身は岩手県北部、青森県境に位置する「軽米町」で生まれ育ちました。軽米町の特産品としては「雑穀」が風土に適合し食文化を育んできました。穀類には老化を防ぐと言われる抗酸化成分のポリフェノールを始め、

様々な栄養成分が豊富に含まれており、腸内環境を整え健康を保つ機能があるとされています。おもに「あわ・ひえ・きび・アマランス・そば・エゴマ」などの雑穀を生産しています。そして森の大地と水のまち「軽米」はその恵みの宝庫であり「木炭」、「しいたけ」、「さるなし・山ぶどう・りんごのジュース」など生産されております。

高校卒業後、実家を離れ約四十年が過ぎました。コロナ禍帰省も自粛している状況です。

趣味は旅行（ドライブ）で家族と出かけることが現在の楽しみとなっておりますが、昨年以来コロナ禍の影響により県外への移動自粛もあり、中々行動できない状況です。一日も早い以前の生活に戻れるようコロナ感染対策を徹底して、また旅行が出来るようになったらと願っております。

入所者の皆様におかれましては、コロナ感染対策から、新生園行事の自粛、新生茶房の自粛等々ストレスの耐えない状況が続いておりますが、安全安心な食事をお届け出来るよう日々努力して参ります。各種行事、新生茶房の再開のおりには、楽しんでいただけるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。

転勤のご挨拶

看護師長　髙橋佑美

この度、独立行政法人国立病院機構いわき病院から赴任して参りました、髙橋佑美と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

出身は、宮城県南部に位置する柴田町です。柴田町観光で定番の観光スポットが「白石川堤―千本桜」です。隣町の大河原町から柴田町にかけて、白石川堤に約一二〇〇本の桜並木が続く桜の名所で、日本さくら名所一〇〇選にも選ばれているお花見スポットです。全長八キロに及ぶ桜並木は感動に包まれます。今年は新型コロナウイルスの影響のため、桜の時期に開催される「しばた桜まつり」は中止となりましたが、今年は国立療養所東北新生園の桜並木に癒やされました。

私は、宮城病院で約二十年間勤務し、いわき病院に転勤し、看護師長として、重症心身障がい児（者）病棟に三年間勤務して参りました。そして今回、四月より国立療養所東北新生園に赴任致しました。不安と緊張でいっぱいでしたが、スタッフの温かい対応に救われています。

またハンセン病の長い歴史を知り、考えさせられることが沢山ありました。入所者の方々が安心して穏やかに生活を送れるように、思いに寄り添えるよう、スタッフと共に看護・介護を行っていきたいと思います。

まだご挨拶できていない入所者の方々もおりますので、お会いした際には声をかけさせて頂きたいと思っております。まだ不慣れで至らない事が多く、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、その都度ご指導頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。

コロナ撃退!!
今こそ愛と思いやりを❤

離任式

令和3年3月31日

今年も新型コロナウイルス感染防止対策の為、本館会議室にて行われました。